

2012. 2. 2 (木)

佃区民館

16時30分～20時

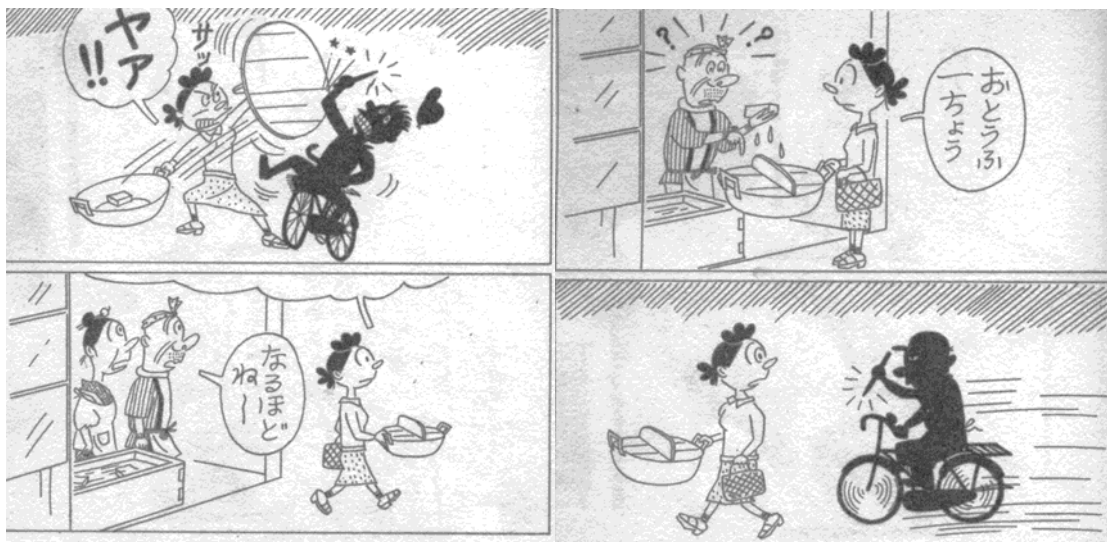
防犯とマンション管理、地域コミュニティ

はじめに

去年3月11日の震災を経験した私たちは、今日の平穏な生活が当たり前のことではなく、突然に奪い去られることが現実に起きるのだと思い知らされました。一瞬のうちに、いままで大切にしていた家族や友人、家や財産をすべて奪いさらられてしまうなど想像しがたいことでした。

3月11日の悲劇は震災よるものでしたが、犯罪によっても、被害にあった人だけでなく家族や友人などの周りの人々にとって、それまでの平和な生活が突然に奪い去られ、つらくて暗い生活が続くこともあるのです。

では、犯罪を少しでも遠ざけるにはどうすればよいでしょう。市民安全学会会長の石附弘さんは、誰にでもわかりやすい危機管理の真髄をサザエさんの4コマ漫画で紹介しています。



I. 危機管理は想像力 ～塚原ト伝 ～とっさの判断力～ (石附弘)

夜道で強盗にあったら・・・と、サザエさんがたった一丁のお豆腐を買うために大きなおなべを抱えている理由を豆腐やさんのご夫婦に説明しています。

これぞ危機管理の真髄！「見えない危機を想像し回避するイメージ力を養う：塚原朴伝の故事にたとえて」

危機をイメージする

千葉県習志野市の青葉幼稚園の藤本園長先生は、日本の防犯という雑誌の中で「一日のうち10秒でいいから、災害や犯罪発生をシュミレーションする」ことを提案しています。

■イメージをしてみましょう

ご自分にとって何が危険と感じますか？たとえば今日これから帰宅するまでに遭遇するかもしれない犯罪についてイメージし、どのように回避するか、サザエさん方式に考えてください。そして、近くの人と話し合ってください。

ご自身にとっての危険に加えて、自分以外の人がどんなことを怖いと思っているかイメージできれば、お互いに暮らしよいですね。そのためには、想像力を働かせることと、正しい情報をきちんと受け止めることだと思います。

平常性バイアスと愛他行動

「災害や犯罪は、いつどこで起こっても不思議ではない。自分だけは大丈夫と楽観過ぎることは危険だ」とは、よく耳にします。でも、つい楽観的になるのは、人間が本来持っている本能であると心理学者が説明しています。私たちが本能的にもっている心の防御反応（「平常性バイアス」という心理的現象）により、パニックにならないで心の安定をたもとうとする能力です。危機を過小評価して逃げ送れてしまうことがあるのは、そのためです。

また、おぼれている人を助けようと咄嗟に水に飛びこんでしまうような行動を「愛他行動」といって、人間が本能的に持っている行動プログラムなのだそうです。災害時に人を助けようとして自分も逃げ遅れるのは「愛他行動」のためでもあるそうです。

過去に学び、予測し、準備することの大切さ（釜石の奇跡）

釜石市で学校管理化の子供が全員無事だったという奇跡的な現象は、「稲村の火」（共助）と「てんでんこ」（自助）の伝承をもとに、市、教育委員会、現場の先生、研究者が一体となって本当に役立つマニュアルを作成、実践的に活動したことによるものだそうです。過去の教訓に学び、危機を予測し対策をとったことが多くの命を救ったのです。

同じ過去の教訓を聞いていたけれど、それに学ぶことのなかった自治体では、危険を予測しなかったために、多くの幼い命を津波で失ってしまいました。

「稲村の火」

1854年（安政元年）の安政南海地震津波に際して紀伊国 広村（現在の和歌山県広川町）で起きた故事をもとにした物語です。その夜、村人は総出で海岸の近くで祭りの準備をして

いました。そのとき、地震が起き、その後津波が押し寄せることが高台にある村の長老の家から見えたのです。村人に知らせるために、刈ったばかりの稲の束に火をつけて人々の命を救ったという共助の教訓です。

「てんでんこ」

東北地方で言い伝えられている「津波てんでんこ」は、「自分の命は自分で守れ」という自助の教訓です。とにかく各自の判断で肉親にも構わずに高台に逃げて生き延び、自分自身は助かりましょう。また、たとえそのために他人を助けられなかったとしてもそれを非難しない、という不文律でもあります。

II. 過去が繰り返される

防犯に関していえば、「自然災害以上に過去の犯罪は繰り返される」と専門家は指摘しています。同じ家が何回でも泥棒被害に遭い、交通事故の発生する場所も同じような場所で何回も起こるのです。

他人事と聞き流す？

事件が毎日報道されます。皆さんはどのようにニュースを受け取りますか？自分だけは大丈夫と思っていないでしょうか？

犯罪被害は、ニュースや話で聞く限りでは、あまり痛みを感じないでしょう。でも、実際に自分や家族の身に起こったとしたらどうでしょう？被害にあうと、その痛みや悲しみ、悔しさは生涯忘れることはないでしょう。場合によっては、人生がめっちゃめっちゃになることもあります。

犯罪被害は、誰の身にも起こりうることです。サザエさんのような日ごろの心がけは、ちょっと滑稽にみえますが、笑い事で済まさないようにしたいものです。

マンションで起こった被害の例

実例を知ることが予防の第一歩です。

(共用部分で起こった事件)

① 焚き火

郊外の団地型マンションで夏休み、朝出勤した管理人が駐輪場脇に焚き火跡を見つけて110番。その後、管理組合では防犯カメラとセンサー照明を設置した。

(写真)

② 落下物

タワーマンションで起こった事件です。数日間にわたって毎日午後3時ころ、高層

階の外廊下から小石が投げられ、管理組合の理事と管理人が張り込みをするなどして、警戒を続けた。犯人は子供のいたずらであった。

③自転車泥棒

マンションの駐輪場から自転車が盗まれた。管理組合ではその後照明を明るくし、防犯カメラを設置した。

(写真)

④車上狙い

郊外のマンションの平面駐車場で未施錠の車の後部座席に置いたスケートボードが盗まれた。

(専有部分で起こった事件)

① 夜間、マンションの2階の居室に隣の事務所のベランダから侵入した空き巣に現金と貴金属が盗まれた。

(写真)

② 宅急便業者を装った暴漢が玄関から侵入し、夫が刺されて死亡。

(新聞記事)

③ コンビニで弁当を買って帰宅した女性の後をつけた暴漢が帰宅直後に背後から襲いかかり、暴行。

④ 天井の点検口を通して隣人が侵入し、寝ているところを襲う。

■これらの事件はなぜ起きたのでしょうか？共通点はあるのでしょうか？

(休憩)

III. 割れ窓理論の紹介

なぜ同じような犯罪が同じような場所で繰り返されるのでしょうか？

犯罪を、犯罪者の「心」ではなく、犯罪が起こる「場所」に注目して現実的で効果的な防犯対策をしようとする考え方が「割れ窓理論」です。

環境に注目して防犯を考える ～割れ窓理論～

割れ窓理論 (Broken Windows Theory) は、ジョージ・ケリングとキャサリン・コールズ (ケリング夫妻) によって展開された犯罪社会学の理論です。

欧米の犯罪減少に成果をあげたことから、日本でも防犯対策のひとつとして取り組んで

いる自治体もあります。

従来の日本のコミュニティは、家族、学校、会社、町内会といった集団が、構成員に安心を提供し、構成員は集団のルールを厳格に守ることで、犯罪者を寄せ付けない地域づくりをしてきました。

しかし、日本人のライフスタイルの欧米化により、集団よりも個人を重んじるようになったため、集団への求心力が薄れたことから犯罪を起こしやすい環境になったと考えるのです。

われ窓理論は、集団の些細なルール違反を見過ごすことが、犯罪という重大なルール違反をおこさせてしまうとする考え方です。

犯罪防止を犯人に注目してなぜ犯罪をおこしたのか、その原因を無くそうとするのではなく、環境を整えて犯罪を起こさせる機会をなくするという予防対策の考え方がわれ窓理論です。

犯罪原因論では、Who（誰が）、Why（なぜ）を考える対象とするものです。

犯罪機会論では、Where（どこで）、When（いつ）、What（何を）を考える対象とするものです。

【犯罪機会論の考え方】

犯罪の機会（状況）		犯罪に強い要素	ハードな要素	ソフトな要素
標的	What、Whom	抵抗性（押し返そうとする力）	恒常性（変わらないこと）	管理意識（よい状態を維持しようとする）
場所	Where、When、How	領域性（犯罪者の力の及ばない範囲を明確にすること）	区画性（区切られていること）	縄張意識（侵入は許さないと思うこと）
		監視性（犯罪者の行動を把握できること）	視認性（自然な視線が確保されていること）	当事者意識（自分の問題として捉えること）

上記の犯罪に強い要素のうち、ハード面の区画性、視認性を重視した設計思想が CPTED（防犯環境設計）で、ソフト面を重視した考え方が「割れ窓理論」です。

上記の表から、犯罪の起こりやすい場所とは、ハード面では「区画性の無い」（誰でもが入りやすい）、視認性の無いこと（見えにくい）、ソフト面では「縄張り意識が無い」、「当事者意識が無い」（無関心）な場所といえます。

（別紙参照）

地域安全マップの紹介：

犯罪が起きた現場には共通点があります。犯罪者が犯行に及ぶ場所は、誰もが入りやすく、誰からも見えにくいという場所です。

地域を点検し、地図に表したものが地域安全マップです。「地域安全マップづくり」を学べば、どこに犯罪者が現れるのかを予測し、犯罪を予防することが可能です。

子供の犯罪防止能力を高める手法として全国の小学校で取り組みが進んでいますが、大人の犯罪防止や地域社会の防犯対策にも有効です。（立正大学小宮信夫教授の言葉から引用）

*マンション管理総合研究所として展示会に参加しました。

（最後に提案）

■ マンション安全マップを作成してみませんか？

マンションで発生した犯罪の実例から、「入りやすく見えにくい」場所で犯罪が起きていることがわかります。マンションの防犯対策としてマンションの安全マップを作成してみませんか？安全マップは、防犯だけでなく、防災対策や、修繕を目的とした建物点検や、日常管理の点検のためにも役立ちます。

■ マンション白地図を作成してみませんか？

大規模修繕を控えた検討を始めたとき、自分のマンションについて、知らないことが多すぎると驚きました。

たとえば、エレベーターについて、ドアの色が思い出せない、天井の照明デザインがわからない、押しボタンの形状はどんなだった？

エレベーターでこんな状態ですから、普段目にするものの無い電気や給排水設備がどこにあるのか把握している方はそんなに多くは無いのでしょうか？と思います。

そこで、小学生のときに日本地図を覚えるのに使った白地図を思い出し、マンション白地図を作成してみました。

参考

警視庁ホームページ

<http://www.keishicho.metro.tokyo.jp/seian/ppiking/ppiking.htm>

警視庁犯罪発生マップ

http://www.keishicho.metro.tokyo.jp/toukei/yokushi/kushi/yoku_ks.htm?ah08

神奈川安全安心マップ

<http://www.anzn.net/kanagawa/safety/index.html>

神奈川県犯罪発生マップ

<http://www.police.pref.kanagawa.jp/map/crime/html/mesd0801.htm>

千葉県犯罪発生マップ

http://www.police.pref.chiba.jp/safe_life/gis/crime/

大東京防犯ネットワーク 地域安全マップ

http://www.bouhan.metro.tokyo.jp/tokyo/t03_03.html







2012/01/27



2012/01/27

